

研 究 分 野	資源生態、資源評価、漁場環境	部 名	漁業開発部
研 究 課 題 名	サケ・マス増殖管理推進事業 サケ		
予 算 区 分	水産業振興費 (国1/2)		
試験研究実施年度・研究期間			
担 当	吉田 雅範		
協 力 ・ 分 担 関 係	内水研		

〈目的〉

本県のサケ資源の増大を図るため、ふ化場に対する技術指導を継続するとともに、放流適期調査及び効率的、効果的な資源造成計画を作成するために必要な調査を行う。

1. 回帰資源調査：親魚の来遊構造や特性を明らかにし、来遊予測のための基礎資料を得る。
2. 移動分布調査：放流適期の把握及び放流初期の減耗要因、移動経路等を把握することにより放流技術の向上（効率的放流方法）について検討する。

〈試験研究方法〉

1. 回帰資源調査

回帰親魚尾数の把握と、既存資料を使った予測手法の開発及び精度の向上、及びサケ親魚回帰時の太平洋沿岸域での海洋観測の実施（9～12月まで月1回）。

2. 移動分布調査

1) 標識放流種苗の追跡調査（放流河川：赤石川さけますふ化場）

放流月日 3月上旬放流群：2004年3月5日、4月上旬放流群：2004年4月9日

放流尾数 3月上旬放流群 15万尾（1.79g）、4月上旬放流群 15万尾（2.31g）

追跡場所 小泊沖（光力利用敷網）、今別沖（定置網混獲等）、白糠（イカゴ棒受網混獲）

2) 春季沿岸環境調査

①水温連続観測：メモリー式水温センサーによる表面水温の連続観測（大戸瀬、小泊、今別、八戸）

②春季環境調査：表層から海底までの各層観測（水温、塩分、クロフィル量）

八戸漁港3ヶ所、定地観測3ヶ所（赤石漁港1ヶ所、八戸漁港2ヶ所）

〈結果の概要・要約〉

2004年漁期の各海域での沿岸漁獲尾数（速報値）は、太平洋150.2万尾（昨年比146.1%）、津軽海峡46.4万尾（前年比195%）、陸奥湾内1.1万尾（前年比271%）、日本海26.3万尾（前年比227%）、県全体では224万尾（前年比162%）であった。

津軽暖流水の勢力は弱勢であった。調査海域における親潮系水の沿岸への張り出しは、9月の40°32'線の沖側で観測された。

追跡調査では、小泊沖で5,869尾のサケ幼稚魚を採集した。平均尾叉長は68.9～97.7mmの範囲でサイズの変化がほとんど見られなかった（表1）。そのうち、標識魚は3月上旬放流群が20尾、4月上旬放流群が29尾の合計49尾であった。再捕期間は3月上旬群が45～58日、4月上旬群が10～29日であった。

大戸瀬地先における日平均表層水温は、4月以降平年より高めで推移していた。日平均水温が12℃を超えたのは5月8日、13℃を超えたのは5月24日であった（図1）。八戸及び赤石の観測の結果、クロフィル量のピークは赤石漁港で4月、八戸漁港で5月以降と考えられた（図2）。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 採集されたサケ幼稚魚の魚体測定結果

採集年月日	海 域	表面水温 (°C)	採集尾数 (尾)	F. L(mm)				平均B. W (g)
				Ave.	S.D.	Max.	Min.	
4月19日	小泊沖	11.0	1,140	70.0	6.6	89	52	2.8
4月22日	小泊沖	10.5	1,103	68.9	7.1	85	50	2.8
4月23日	小泊沖	10.5	397	83.4	11.0	125	63	4.8
4月25日	小泊沖	10.6	668	82.2	9.7	115	59	4.2
4月29日	小泊沖	10.9	505	80.2	7.6	100	58	4.5
4月30日	小泊沖	11.1	522	80.2	7.3	96	63	4.3
5月2日	小泊沖	12.2	636	77.0	8.1	95	60	3.7
5月4日	小泊沖	11.7	295	90.9	8.1	113	72	6.3
5月6日	小泊沖	12.8	249	89.7	7.7	107	68	6.3
5月8日	小泊沖	13.0	319	87.5	7.7	103	65	5.9
5月17日	小泊沖	13.3	35	97.7	6.0	110	83	8.6
5月19日	小泊沖	13.6	0	-	-	-	-	-
5月21日	小泊沖	13.3	0	-	-	-	-	-
5月23日	小泊沖	14.3	0	-	-	-	-	-

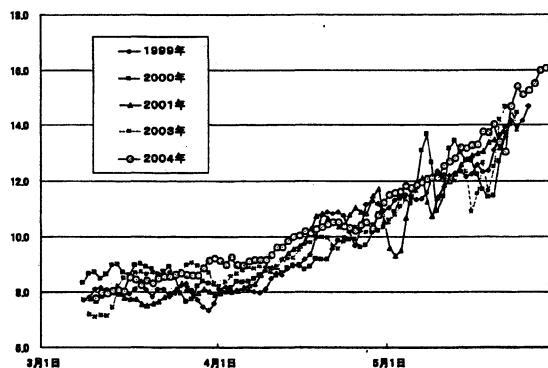


図1 大戸瀬地先における日平均表面水温の推移

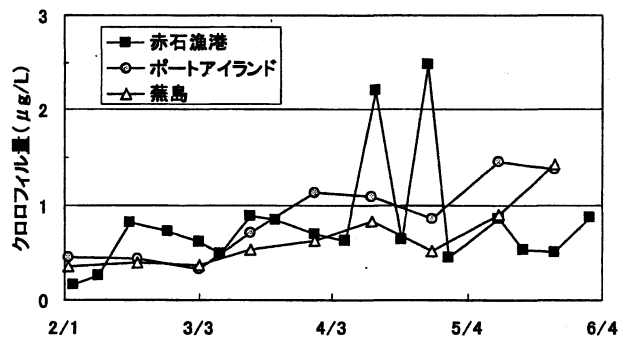


図2 定地観測結果 (クロロフィル)

〈今後の問題点〉

- ・効率的放流方法の検討（特に放流適期に注目して）
- ・予測手法の確立と回帰資源評価
- ・八戸漁港の春季環境条件の把握

〈次年度の具体的な計画〉

昨年同様の調査内容となっている。

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・各種報告会における結果の発表
- ・地区さけます協議会での学習会で活用
- ・学習会（東通村）における来遊資源予測